



# Cisco TelePresence Management Suite 15.10

## ソフトウェアリリースノート

初版発行：2020年1月



## はじめに

### 変更履歴

表 1 ソフトウェアリリースノートの変更履歴

日付	変更内容	理由
2019 年 11 月	ソフトウェアのリリース	Cisco TMS 15.10

## 製品に関する資料

次のドキュメントでは、製品のインストール、初期設定、および動作についてのガイダンスを提供します。

- [Cisco TelePresence Management Suite インストレーション/アップグレードガイド](#)
- [Cisco TelePresence Management Suite アドミニストレータガイド](#)
- [Cisco TMS 拡張機能導入ガイド](#)

## 15.10 の新機能

### IX5000 の HTTPS サポート

Cisco TMS は、通信モード（中、中 - 高、または高）がどれであっても、HTTPS のみで IX5000 のすべての機能をサポートするようになりました。サポートされている IX5000 ソフトウェアバージョンは 9.1.1 以上です。

### WebEx から WebEx Hybrid Settings へのブランド変更

Cisco WebEx から Cisco WebEx Hybrid Settings にブランドを変更しました。

### Cisco Webex Desk Pro

Cisco TMS は、CE 9.x ソフトウェアでの Cisco Webex Desk Pro エンドポイントをサポートするようになりました。

### Cisco Unified Communications Manager で管理されているエンドポイントの認証情報を Cisco TMS で更新できる

Cisco TMS には Cisco Unified Communications Manager で管理されているデバイスの[接続 (Connection) ]タブが追加され、TMS に登録されている認証情報をそこで更新できるようになりました。Cisco TMS に登録されている Cisco Unified Communications Manager 管理対象エンドポイントの認証情報が変更されると、Cisco Unified Communications Manager 管理対象エンドポイントではステータスが[間違っただユーザ名/パスワード (Wrong username or password) ]に変わります。Cisco TMS のそのエンドポイント用の[接続 (Connection) ]タブで、正しい資格情報を手動で更新する必要があります。

注：Cisco Unified Communications Manager から行われた認証情報の更新は、Cisco TMS でその認証情報が手動で更新されるまで、Cisco TMS に登録されている Cisco Unified Communications Manager 管理対象デバイスに適用されません。

### 予約 API を使用した SOAP API 要求/応答のロギング

Cisco TMS では、すべての要求と応答を含めて、Cisco TMS 予約 API の SOAP インタラクションロギングが可能になりました。

## Microsoft Windows Server 2019、ESXi 6.7、および .Net Framework 4.8 のサポート

Cisco TMS は次の製品をサポートするようになりました。

- Microsoft Windows Server 2019 (64 ビット)
- ESXi 6.7
- .Net Framework 4.8

## 以前のリリースの機能

以前のリリースの新機能の詳細については、次のリンクを参照してください。

[Cisco TMS 15.9](#)

[Cisco TMS 15.8](#)

[Cisco TMS 15.7](#)

[Cisco TMS 15.6.1](#)

[Cisco TMS 15.6](#)

[Cisco TMS 15.5](#)

[Cisco TMS 15.4](#)

[Cisco TMS 15.3](#)

[Cisco TMS15.2.1](#)

[Cisco TMS 15.1](#)

[Cisco TMS 15.0](#)

[Cisco TMS 14.6.2](#)

[Cisco TMS 14.6.1](#)

[Cisco TMS 14.6](#)

## 解決済みおよび未解決の問題

次のリンクをクリックして、このリリースで解決済みの問題と未解決の問題に関する最新情報をご覧ください。

[https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=\\*&pf=prdNm&pfVal=283688292&rls=15.10&sb=anfr&bt=custV](https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283688292&rls=15.10&sb=anfr&bt=custV)

Cisco バグ検索ツールにログインした後、ブラウザの表示を更新する必要があります。

## 制限事項

機能	制限事項
サポートされるタイムゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Cisco TMS サーバのタイムゾーンを変更することはできません。</li> <li>■ DST の日付やタイムゾーンのリージョンの変更など、国際タイムゾーンの修正は、Microsoft Windows の更新プログラムによって Cisco TMS サーバと Cisco TMS で自動的に更新されます。Cisco TelePresence TE または TC ソフトウェアを実行しているエンドポイントについても同じです。これらのエンドポイントには、手動で定義されたタイムゾーンのリストがあるため、DST 日付またはタイムゾーンリージョンの変更は反映されません。これにより、直接管理されているエンドポイントでタイムゾーンの不一致エラーが発生する可能性があります。スケジューリングは影響を受けませんが、Cisco TMS はタイムゾーンデータの読み取り/書き込みに失敗する可能性があります。</li> </ul>
TelePresence Conductor のスケジューリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ TelePresence Conductor は、会議と会議の間でリソースを解放するまでに最大 30 秒待機する場合があります。そのため、参加者が会議への参加と退席を繰り返すと、連続する会議の着信や発信が拒否されたり、使用率が急上昇したりする可能性があります。</li> <li>■ TelePresence Conductor の複数クラスタノードを Cisco TMS に追加できませんが、スケジューリングにはプライマリ TelePresence Conductor のみを使用できます。</li> <li>■ Cisco TMSPE によって生成された Collaboration Meeting Rooms のスケジューリングはサポートされていません。</li> </ul> <p>注：Telepresence Conductor のサポートは 2019 年 2 月 6 日に終了しており、今後のリリースはありません。詳細については、<a href="https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/conferencing/telepresence-conductor/eos-eol-notice-c51-739456.html">https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/conferencing/telepresence-conductor/eos-eol-notice-c51-739456.html</a>を参照してください。</p>
TSP の音声と会議の拡張	<p>WebEx によって 2 つの会議が同じ TSP 音声番号に割り当てられている場合は、Cisco TMS はそのことを認識せずに会議を拡張するかどうかを決定します。それにより、2 つの会議で音声参加者が同じになる可能性があります。</p>

機能	制限事項
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ FindMeと Multiway を使用した会議では、<b>会議制御センターとレポート</b>で重複が発生する可能性があります。</li> <li>■ 会議で参加者が保留または転送されると、<b>会議制御センターとレポート</b>で重複が発生する可能性があります。</li> <li>■ <b>会議制御センターとグラフィカルモニタ</b>は、Google Chrome バージョン 42 以降、Firefox 52 以降、Opera、および Microsoft Edge で機能しません。Google Chrome と Firefox の今後のリリースで Netscape プラグインアプリケーションプログラミングインターフェイス (NPAPI) がまったくサポートされなくなるまで、<b>会議制御センターとグラフィカルモニタ</b>を開くために次のオプションを試すことができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Internet Explorer バージョン 10 または 11 を使用する。</li> <li>- Firefox のデフォルト設定を上書きして、Firefox 52 (32 ビット) でのみ NPAPI プラグインサポートを再度有効にする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a Firefox 52 (32 ビット) でのみ NPAPI プラグインを有効にするには、<b>about:config</b>設定を使用します。新しいブール文字列<b>plugin.load_flash_only</b>を追加して、<b>false</b>に設定します。</li> <li>b ブラウザを再起動します。</li> </ul> </li> <li>- Firefox 52 (32 ビット) ESR (<b>延長サポート版</b>) のみをダウンロードして使用します。NPAPI プラグインは 2018 年 3 月まで機能します。 注：Firefox 52 (32 ビット) ESR (延長サポート版) がインストールされている場合は、他のスタンドアロンの Firefox ソフトウェアバージョンがインストールされていないことを確認してください。</li> <li>- Google Chrome で IE Tab 拡張機能を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a Chrome (<a href="https://www.ietab.net/">https://www.ietab.net/</a>) で Internet Explorer (IE) を実行します。</li> <li>b IE Tab 拡張機能が Google Chrome にインストールされている場合は、Google Chrome のアドレスバーの横に表示されている IE アイコンをクリックできます。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>■ 参加者のスナップショットとイベントログデータの自動更新 (<b>会議制御センター</b>の機能) は、どのバージョンの Google Chrome でも機能しません。</li> <li>■ 会議の詳細が<b>会議制御センター</b>に徐々に表示されるのは、<b>[通信セキュリティ (Communication Security)]</b>が<b>[高 (High)]</b>に設定されている場合です (<b>[TMS ツール (TMS Tools)]</b> &gt; <b>[セキュリティ設定 (Security Settings)]</b> &gt; <b>[トランスポート層セキュリティのオプション (Transport Layer Security Options)]</b>) 。</li> <li>■ パフォーマンスを向上させるには、次のいずれかを実行することをお勧めします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>[TMS ツール (TMS Tools)]</b> &gt; <b>[セキュリティ設定 (Security Settings)]</b> &gt; <b>[トランスポート層セキュリティのオプション (Transport Layer Security Options)]</b> で、<b>[通信セキュリティ (Communication Security)]</b>のセキュリティモードとして<b>[中 (Medium)]</b>または<b>[中 - 高 (Medium-High)]</b>を選択します。</li> <li>- <b>会議制御センター</b>のユーザ数を<b>[通信セキュリティ (Communication Security)]</b>が<b>[高 (High)]</b>に設定されている場合は減らします。</li> </ul> </li> </ul>

機能	制限事項
WebEx	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CMR Hybrid に対する高度な定期的パターンはサポートされません。[新しい会議 (New Conference)] ページから予約する場合は、WebEx を含めてから、サポートされている定期的なパターンのみが表示されるように定期的なパターンを指定してください。</li> <li>■ 1 つのインスタンスが進行中に定例会議シリーズを削除すると、Cisco TMS では会議が削除されますが、WebEx では削除されません。これは、WebEx が進行中の会議に変更を許可しないためです。これには削除が含まれます。</li> <li>■ Cisco TMS ツールで[通信セキュリティ (Communication Security)] のオプション [中 - 高 (Medium-High)] または [高 (High)] を選択すると、Cisco TMS の一部またはすべての機能が失われます。</li> <li>■ 会議が WebEx で予約されている場合、後で Cisco TMS で会議の所有者を変更すると、会議の所有者の詳細は Cisco TMS でのみ反映され WebEx では反映されなくなります。さらに、Cisco TMS で会議を更新しようとする、エラーが発生する可能性があります。</li> </ul>
コラボレーションエッジ	Cisco TMS は現在コラボレーションエッジの背後にあるデバイスをサポートしていません。
Expressway	Cisco Expressway-C と Cisco Expressway-E は、システムタイプ TANDBERG VCS を使用して Cisco TMS に表示されます。
[システムタイプ (System Type)] フィールド	以前に TANDBERG がシステムタイプに含まれていた一部のシステムが、Cisco TMS に引き続き TANDBERG として表示されることがあります。これはシステムの API からシステムタイプを直接読み取る Cisco TMS に主に基づいています。API を介して使用できなかったシステムタイプが追加されることがあります。そのため、その名前とシステムタイプ TANDBERG が表示され続けることがあります。
下部バナー	Cisco TMS ツールで下部バナーが有効になっている場合、Internet Explorer 10 で Cisco TMS Web アプリケーションを使用して、強化されたセキュリティ設定を有効にすると、ウィンドウの下部にあるリンクとボタンが無効になります。
Cisco TMSPE が Cisco TMS と通信できない	Cisco TMSPE が Cisco TMS と通信できないのは、Cisco TMS 15.6 以降のバージョンでセキュリティモードが高になっている場合です。 この制限は、Cisco TMSPE の将来のリリースで対処されます。
TelePresence Conductor のクラスタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プライマリ TelePresence Conductor が停止した場合に、エイリアスに対するフェールオーバーはサポートされません。プライマリ TelePresence Conductor が停止しているときに管理者がピア TelePresence Conductor の一部のエイリアスを変更した場合、プライマリノードがアクティブになるまで、ピアの TelePresence Conductor のエイリアスを TMS で更新することはできません。</li> <li>■ このリリースでは、プライマリ TelePresence Conductor からのフィードバックのみが Cisco TMS によって処理されます。これは、プライマリ TelePresence Conductor が停止している場合に、アドホック解決が影響を受ける可能性があることを意味します。</li> <li>■ このリリースでは、スケジューリング、ルーティング、およびロードバランシングのためのクラスタ化された TelePresence Conductor のサポートはありません。</li> </ul>
Cisco TMS での会議のスケジューリング	24 時間以上スケジュールされた会議と重複している定例会議は予約できないことがあります。 Bug Toolkit の ID : CSCux64873。
Cisco Meeting Server ステータス	会議の進行中に Cisco Meeting Server が停止したときには、[会議イベントログ (Conference Event Log)] に [メインシステムからの応答なし (No Response from Main System)] というログは表示されません。
スケジュール済み会議を無視し、アクティブコールを続ける (Ignore Scheduled Meeting and Continue Active Call)	この機能は、ブリッジがエンドポイントにダイヤルしている場合にのみ機能します。

機能	制限事項
システムの追加	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPv4 と IPv6 の場合 : Cisco TMS は IPv4 でシステムを追加します。同じシステムを IPv6 で追加することもできます。その逆も同様に可能です。</li> <li>ホスト名と IPv6 の場合 : ホスト名を使用して Cisco TMS に Cisco Meeting Server を追加する場合は、別のシステム ID を使用して同じ Cisco Meeting Server を IPv6 で Cisco TMS に追加することもできます。</li> </ul>
Cisco Meeting Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議イベントログには、外部ダイヤルインに関する情報はありません。</li> <li>Cisco Meeting Server 2.1 では、リダイヤル動作の重複を防ぐために、[会議設定 (Conference Settings)] &gt; [接続タイムアウト (Connection Timeouts)] の値を最小の 45 秒に設定する必要があります。</li> </ul>
プライベート会議	<p>プライベート会議機能は、特定のエンドポイントのプライバシーモードによって異なります。</p> <p>注：CTS などの既知のエンドポイントでは、予定されている会議リストに会議のタイトルを表示しないようにプライバシー設定が設定されています。</p>
サポートされる Cisco VCS のデフォルト以外のポート	Cisco TMS のデフォルト以外のポートを使用して Cisco VCS を追加した場合は、SNMP は検出できません。これは設計上の既知の制限事項であり、SNMP チケットをクリアするために、SNMP コミュニティ名を <b>システムナビゲータ</b> に手動で追加する必要があります。
Cisco TMS LiveService で参加者が特定の coSpace と適切に関連付けられない	<p>この問題は、Cisco TMS の Cisco Meeting Server との統合に使用できるポーリングまたはフィードバックメカニズムがないために発生します。Cisco TMS は、外部 (Cisco TMS による管理対象外) で coSpaces に属する参加者を正しく識別できません。</p> <p>このようなユースケースでは、TelePresence Server または MCU ブリッジを使用します。</p>
予約招待電子メールに非マルチサイトビデオアドレスが含まれている	マルチサイトエンドポイントと非マルチサイトエンドポイントの組み合わせを使用して会議をスケジュールする場合に、ブリッジが関与せず、方向がダイヤルアウトであると、予約招待電子メールには、マルチサイトエンドポイントと非マルチサイトエンドポイントの全参加者の URI が含まれます。
SuperCOP ファイル	サイズが 2 GB を超える SuperCOP ファイルはサポートされていません。SuperCOP ファイルが 2 GB を超えている場合は、エンドポイントごとに個別の COP ファイルを使用する必要があります。
早期参加に関する警告	「早期参加時間」の間に、TMS で管理されているエンドポイントの参加者がスケジュール済み会議から削除されると、会議の開始時に LiveService がそのエンドポイントの既存のアクティブコールを切断します。
Cisco Meeting Server 展開でコールが接続された状態にある場合でも、エンドポイントの CUCM ダイヤルのコール切断がイベントログが表示されます。	これを機能させるには、Cisco TMS の URI とエンドポイントの接続時間の URI が同じになるように、CUCM ルートパターンで設定を適切に行う必要があります。エンドポイントからのフィードバックログに基づいて、会議は [接続済み (Connected)] または [切断済み (Disconnected)] に設定されます。
参加者テンプレート	Cisco Meeting Server を使用して参加者テンプレートを作成した場合は、ダイヤルアウトに [再利用可能 (Reusable)] オプションは機能しません。
電話帳	Cisco TMS では、高モードまたは中 - 高モードの場合に「ファイルベースの電話帳」ソースはサポートされません。
Cisco TMS における Cisco Unified Communications Manager 管理対象エンドポイント	Cisco Unified Communications Manager 管理対象 CTS エンドポイントは Cisco TMS に追加されません。

機能	制限事項
Cisco IX5000	Cisco TMS バージョン 15.10 より、SSH 通信モードは Cisco IX5000 でサポートされなくなりました。

## 相互運用性

この製品の相互運用性テスト結果は<http://www.cisco.com/go/tp-interop>に掲載されています。ここでは、他の Cisco TelePresence製品の相互運用性テスト結果も確認できます。

## 15.10 へのアップグレード

### アップグレードする前に

#### 冗長展開

Cisco TMS の冗長展開を利用している場合は、『[Cisco TelePresence Management Suite インストール/アップグレードガイド 15.9](#)』を読んでから、Cisco TMS 15.10 にアップグレードする必要があります。

#### 14.4 または 14.4.1 からのアップグレード

Cisco TMSXE または Cisco TMSXN を使用する 14.4 または 14.4.1 からアップグレードする場合は、CISCO TMS 15.10 にアップグレードする際に、『[Cisco TelePresence Management Suite インストール/アップグレードガイド 15.9](#)』で説明されているアップグレード手順に従う必要があります。

#### 14.2 より前のバージョンからのアップグレード

バージョン 14.2 以前のバージョンの Cisco TMS からアップグレードする場合は、『[Cisco TelePresence Management Suite インストール/アップグレードガイド 15.9](#)』のアップグレード手順を読んでから、Cisco TMS 15.10 にアップグレードする必要があります。

## 前提条件とソフトウェアの依存関係

互換性のあるオペレーティングシステムとデータベースサーバの完全なリストについては、『[Cisco TelePresence Management Suite インストール/アップグレードガイド](#)』を参照してください。

## アップグレード手順

Cisco TMS は、Cisco TMS の新規インストールと以前の Cisco TMS バージョンのアップグレードの両方に同じインストールプログラムを使用します。

**注：** Cisco TMS 15.10 にアップグレードする前に、Windows アップデートが最新の状態であることを確認します。

アップグレードまたはインストールの完全な手順については、『[Cisco TelePresence Management Suite インストール/アップグレードガイド](#)』を参照してください。

## Bug Search Tool の使用

Bug Search Tool には、問題の説明と利用可能な解決策など、このリリースおよび以前のリリースの未解決の問題と解決済みの問題に関する情報があります。これらのリリースノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを使用して、[Bug Search Tool](#)に移動します。
2. cisco.com のユーザ名とパスワードでログインします。

3. [検索 (Search) ] フィールドにバグ ID を入力し、[検索 (Search) ] をクリックします。ID がわからない場合に情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. [検索 (Search) ] フィールドに製品名を入力し、[検索 (Search) ] をクリックします。
2. 表示されるバグリストの [フィルタ (Filter) ] ドロップダウンリストを使用して、[キーワード (Keyword) ]、[変更日 (Modified Date) ]、[重大度 (Severity) ]、[ステータス (Status) ]、または [技術 (Technology) ] のいずれかでフィルタ処理します。

Bug Search Tool のホームページで[**詳細検索 (Advanced Search)** ]を使用して、特定のソフトウェアバージョンを検索します。Bug Search Tool のヘルプページには、Bug Search Tool の使用に関する詳細情報があります。

## マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

資料の入手方法、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用方法、サービスリクエストの送信および追加情報の収集方法については、『What's New in Cisco Product Documentation (Cisco 製品資料の更新情報) 』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> [英語]) を参照してください。

Cisco 製品資料の更新情報には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルがすべて表示されます。この RSS フィードを登録するか、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツを直接デスクトップに配信することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。



## シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報と推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェアライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティングシステムの UCB パブリックドメインバージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルとソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスと電話番号は、実際のアドレスと電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図とその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハードコピーおよびソフトコピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト ([www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices)) をご覧ください。

© 2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

## シスコの商標

Cisco およびシスコロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、[www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks) をご覧ください。記載されている第三者機関の商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

